令和6年度 東京都立第三商業高等学校（全日制課程）学校経営報告

1 令和6年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

① 学校運営

学校全体で「誰一人として取り残さない」を掲げ、中退者数が昨年の1.78%から、0.4%へ激減させることができた。教員全員で生徒に寄り添った指導が教育効果をもたらし、学校生活に目を向けさせることができ基本的な生活習慣も確立させることができた。1学年の生徒が商業科の検定試験を受験し、その合格率は95%以上である。募集対策として、都立高校の商業教育における教育活動内容を中学生や中学校教員に広く普及させるために、新たな取り組みを実施した。学校全体で区内や区外の中学校に出向き、面接対策マナー講座を講演し、専門高校の内容紹介や本校の教育活動紹介を行った。中学生のみならず、中学3年生の保護者も対象にして受講させる中学校もあった。中学校からは好評を得ている。その中で過去2年間において本校の入学生がいない中学校は、今年度の入学者選抜で複数名の中学生が受検し合格することとなった。これは普及活動の成果である。また今年度はホームページを471回以上更新し、(去年は270回) ツイッターYouTubeを330回以上発信し、本校の教育情報を提供した。

今後の課題は1学期から中学校に講座案内をして、1校でも多く講座依頼を受諾することで多くの中学校に出向くことである。そしてまた来年度の新たな取り組みとしては全校生徒にアンケートを実施して塾訪問を実施し、商業教育を普及することを目標とする。

職員会議では、今年度 Teams を活用したオンライン会議を実施し、ペーパーレスに取り組んだ結果、会議としての効率化を図ることができた。職員室の自席でのオンライン企画調整会議も1学期から実施した。会議全体の時間短縮もできている。しかしながら、会議室内の通信環境が3学期に低下してしまい、オンラインが不通となることが度々発生した。通信環境を整えることが今後の課題である。

企画調整会議では主幹教諭や分掌主任を中心とした組織的な学校運営を推進し、分掌組織のマネジメトサイクル(PDCA)を取り入れた効果的な進行管理を行った。

また、昨年までの3年間書面開催で実施していた学校運営連絡協議会を5月11月2月と3回対面で開催でき、外部協議委員から好評であった。

経営指標、執務ガイドライン、OJT診断基準を有効活用し、各職層としての取組内容の確認とともに若手教職員等の人材育成を図った。

② 学習指導

「観点別評価」を展開し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、ペア学習、グループ学習、発表、マインドマップの作成などを実践し、一斉授業だけの従来型の授業を改善・工夫した授業を実現しつつ授業手法の確立と評価へつなげるための課題を洗い出し、相互に情報収集し、指導の充実を図った。また相互に授業参観をしながら授業力を向上させた。新規採用者が7名もおり、活気に満ちた授業参観となった。

その中で、オンライン授業の手法やオンラインを活用した学びを各教職員が推進したことは成果である。特に若手教員が自ら積極的に、専門教科の学会に参加し発表している。次年度も継続的に発表を行う。

研究授業を通じて「授業手法」の確立・実践や、生徒が活動している際の「評価」についての研究に取り組み、生徒の主体的、対話的な深い学びをよりきめ細かく実践するとともにどんな場面でどんな活動を評価していくのかを研究し、事後研究協議にて成果と課題について報告・協議した。今後も「観点別評価」に活かしていく。

基礎、基本の定着については、生徒の基礎学力の定着度を定期考査や小テスト、個別指導の充実や授業の工夫・改善を通して、生徒に分かる授業を目指して実践した。

基本レベルの資格取得、就職試験、一般受験への対応については、補講・補習を夏季講習を実施し、検定試験については、日商2級等合格し、コロナ禍でありながら合格率を回復基調に乗せた。

習熟度別授業については、数学・英語において展開し、生徒の基礎学力の定着を図った。

「ビジネスアイデア」について2年生生徒が、商業高校における「ビジネスアイデア成果発表会」や「東京プランニング・ラボ」に参加し成果を上げた。

商業教育コンソーシアム東京との連携では、1年生がオンワード株式会社、生命保険会社、3年生は公認会計士等との連携を果たし、発表等において大きな成果をあげた。次年度も継続しさらに発展させる。

国際交流においては、2年間に渡って三商会との打ち合わせと連携が実り、2年生を対象に8月に海外研修実施の運びとなった。

③ 生活指導・進路指導

全教員による組織的な生活指導の徹底を図った。日々の校門指導、校内巡回、遅刻指導、身だしなみ、マナー、頭髪指導、指定バック使用の指導、必要に応じて開催した全校集会や学年集会、あいさつの励行指導、交通安全指導の実施により、基本的な生活習慣の定着及びマナーの遵守を図った。次年度に向け、校則の見直し、通学用リュックを導入する。

特別指導件数は、ここ数年間で大幅に減少し続けているが、今年度も前年度に比べて減少した。しかしSNS使用の関係で複数回指導を受ける生徒もいた。校内放送を活用した全校集会や学年集会を利用した生活指導の徹底、関係機関と連携したセーフティ教室の充実、学級活動や部活動を通じた生徒と教職員との信頼関係の醸成指導の徹底等、今後も引き続き、学級担任と生活指導部、各教科担当者との連携に基づく生徒指導の徹底を図る。また、学校サポートチームやスクールサポーター等との連携はさらに未然防止に務めることは当然であるが、発生した場合の対応は徹底して指導を行い、再発防止に努めていく。

進路指導部と学年の連携による目標管理型の進路指導の充実を図るため、2年生において学校設定科目「ライフビジョン」によるキャリア教育、道徳教育、奉仕などの指導を行った。今年度は2年生全員のインターンシップは実施でき48社と連携し、教育活動の成果を得た。ライフビジョンは2年生のみの履修であるため、1年生ではロングホームルームの効率的な活用、課外での指導が必要であったが、今年度はオンラインを有効活用して回数不足を補うことができたことは、次年度に向けて成果である。

卒業生の進路決定数は、大学進学43名(23.7%)、短大進学4名(2.2%)、専門学校進学59名(32.6%)、就職49名(27.0%)であり、その他26名(14.3%)であった。全体的内訳は、進学者が約6割、就職者が約3割、その他が1割で進学傾向が強くなってきているが昨年と比較すると、就職者が1割減少して進学者が1割増加した。

就職希望者については、歴史と伝統のある今までの繋がりからの企業を中心に木場職安の協力を得て多数の求人をいただき100%の内定率を達成することができた。

前々年度と比較するとオンラインにおける見学説明会や選考試験が減少した。従来どおりの対面を重視した取り組みに戻りつつあるので学校全体で問題を共有して指導していく必要がある。

また、大学進学については、70校以上の指定校推薦の枠から選択していく生徒が多く、専門学校も含めて大半が奨学金を借りて進学していく傾向が強い。そのために、①進学の目的を明確にする。②高校の授業をおろそかにしない。③高校時代に欠席や遅刻をしないように気をつける④適性や興味にあった学科・コースを選択する。⑤夢や憧れでなく、地道に努力することを日ごろの学校生活の中で培っていくことが強く要求されるので、いつでも親身によりそっての指導が必要である。

防災関係では、年4回の避難訓練を実施し、避難経路、迅速な避難、「お・か・し・も」の徹底、自助・共助・公助について自覚した。今年度から地域と連携した防災訓練となり、地域住民も参加した訓練を実施、好評を得た。

④ 特別活動・部活動

部活動においても新型コロナウイルス感染症対策としての活動休止や濃厚接触等により活動が縮小など、様々な制約の中、オンラインを使用しての指導を実施する部活動もあった。年度当初の部活動への加入率は63.8%であり昨年度に比しては若干上昇だが定着率に課題が残る。年度当初は入部してもやめる生徒が多く、アルバイトなどに向かう生徒もいる。多くの部活動が活性化してきているところで、より定着率を高め、学校への帰属意識を高めるための工夫をしていきたい。3学期において1年生と2年生合同で『子供を笑顔にするプロジェクト』でアスリートとの交流を実施した。そして、2学年で日本の伝統芸能の能をオンデマンドで鑑賞した。

⑤ 計画的な広報・募集活動の実施

募集活動においては今年度あらたな取り組みとしてマナー講座を行った。

年度当初にホームページ更新計画を作成し、年間に471回以上更新して本校に関する最新の情報を提供する等、計画的な広報・募集活動に努めた。また、ホームページのリニューアルを行った。

体験入部はソフトボール部、野球部、男女バスケットボール部、ダンス部その他運動部中心に案内し、実施した。中学生の参加者があり、受験へつなぐことができ募集対策の成果がでた。

⑥ 保健指導

養護教諭を中心に自立的な生活管理と健康管理の指導を推進した。また、スクールカウンセラーを活用した相談機能を充実させ、1年生の全員面接のほか、延べ145名の生徒が個別にカウンセリングを利用した。今年度から緊急を要する場合には授業中にも対応できるようにした。特別指導対象の生徒にもカウンセリングを行い、積極的な活用を行った。教員との情報交換・助言等による連携も確立している。外部の関連機関へのつなぎなどの連携もスムーズになり、次年度に向けてさらに活性化していきたい。いじめの未然防止・早期発見・早期解決に対して、教職員、スクールカウンセラーが連携していく。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策としての、各種消毒や検温等を毎日実施、生徒への啓発資料やポスター掲示、全校放送の実施、ゴミの分別の指導を徹底するなど、環境美化に努め、新型コロナウイルス感染症予防対策に多くの教職員、時間を費やした。

⑦ 図書・視聴覚指導

授業の際の図書室活用を促進するとともに、生徒の利用者増を図ったが、これコロナ禍で思うように活動ができなかった。なお、委託会社の社員と図書館担当の教員・司書教諭が連携し、協力して運営を行い、円滑な運営ができた。

今後もすべての教科・科目での生徒の読書活動・言語活動、図書室利用の推進が課題である。

ビブリオバトルは国語科が積極的にオーディションを実施し参加した。

⑧ 校舎の改築及び改修

恵まれた施設の活用により、全ての教育活動の活性化につながっている。

(2) 重点目標への取組と自己評価

① 学習指導

主体的・対話的で深い学びの実現をめざし、アクティブラーニングの推進を図り、参加型・体験型・探究型・発表型の授業を通じて、授業の工夫・改善を励行した。どんな場面で、どう評価するのか。生徒の状況把握とともに、生徒の活動を正當に評価していくことが肝要である。評価を意識し、ルーブリック評価などの手法を用いた授業を実践した。今年度は若手教員研修を21回、実施した。研究授業の事後協議も21回実施した。さらに研鑽を重ね、絶え間なく授業力向上に努めていきたい。

② 生活指導

毎朝の遅刻指導や服装・頭髪等の身だしなみ指導を学校全体の生活指導として継続した結果、基本的な生活習慣やマナーを向上させることができた。

さらに、自転車の交通安全指導に重点を置き、毎朝の登校時の指導に加えて、セーフティ教室を開催した。自転車通学や登下校のマナーで苦情がくることがあった。

③ 進路指導

進学・就職に必要な資格取得については、9月の全商情報処理検定試験、11月の全商ビジネス文書検定試験、12月の全商英語検定試験、1月の全商簿記検定試験、全商情報処理検定試験、2月の全商商業経済検定を目指して商業科と英語科による組織的な補習体制を組み、検定試験の合格率向上を目指した。結果、1学年は95%が合格することができた。昨年度に比べての検定合格率向上は成果である。また、各クラスには学級担任とは別に進路副担任を置いていたが、進路指導部での就職者担当、進学者担当に分けた指導体制は軌道にのっている。また本校独自の手帳を活用し、全校集会・講演会・学習計画・日記として活用させ、生徒自ら計画を立てさせることと必ずメモを取ることを習慣づけさせた。次年度以降も継続して活用させる。

④ 特別活動・部活動

特別指導の実施について、指導日数、指導内容、指導体制について検討・協議した結

果、指導日数の変更を決定した。

特別活動の充実を通して、生徒一人ひとりの存在感と達成感や、学校への帰属意識、クラスの連帯感を高めることにより、生徒の中途退学の防止に努めた。また、年度当初には63.8%あった部活動加入率であるが、昨年より若干上昇だが定着率が課題である。学校への帰属意識を高め、学校生活を充実させるためにも部活動の活性化は不可欠である。

⑤ 保健指導

ごみ箱を撤去し、ごみの持ち帰り指導、放課後の使用教室の消毒など、各クラスの保健委員だけでなく、全校体制の校内美化に全教職員で日々取り組んだ。これにより清潔で衛生的な学習環境を維持することができた。こ

⑥ 研究・研修

「アレルギーとエピペン」校内研修を実施した。

デジタルサポーターを活用し月に8回、年に96回研修を実施した。若手教員のほか、60歳以上のベテラン教員の参加が多くみられた。

体罰の根絶に向けた取組として、年2回の研修会を実施、他に適宜注意喚起を行うなど教員の意識に訴えかけた。また、生徒へのアンケートでは、必要に応じて聞き取りを行い、教員向けのアンケートでも全員に聞き取りを行い、実態把握に努めた結果、体罰の発生はゼロであった。

⑦ 広報・募集活動

外部での合同学校説明会や出前授業とマナー講座は計37回組織的に実施し、本校の教育目標や学校活動を広めた。

学校PRビデオを活用し、三商生の一日を映し出した。文字では表せない、表情・明るい笑顔・やる気・本気度・雰囲気等を伝えることができる内容であり、学校説明会、体験入学時において、中学生・保護者に対して本校を知ってもらう資料とした。

(3) 数値目標

① 学校運営

ア 研究授業	10回以上	←	12回	達成
イ 中途退学率	1.78%	←	0.4%	

② 学習指導

ア 授業満足度	80%以上	←	80.1%
イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	全教科	←	全教科

③ 生活指導

ア 遅刻生徒	2%以下	←	3.3%
イ 特別指導対象件数	3件以下	←	12件

④ 進路指導

ア 進路指導満足度	90%以上	←	88.2%
イ 進路決定率	100%	←	100%

⑤ 特別活動・部活動

ア 行事満足度	70%以上	←	78.6%
イ 部活動加入率	90%以上	←	63.8%

⑥ 広報・募集活動

ア 小中学生との部活動交流・体験入部	5回以上	←	0回
イ ホームページ更新	471回以上	←	270回
ウ 学校広報誌「SUN商タイムス」	3回以上	←	0回
エ 授業公開、体験入学、学校説明会	各3回以上	←	12回
オ 応募倍率	推薦2.0倍以上		学力選抜1.1倍以上
		←	推薦1.3倍 学力選抜0.9倍

⑦ 資格取得

ア 1年次簿記検定3級以上合格率	95%以上	←	86%
イ 1年次情報処理検定3級以上合格率	90%以上	←	78%
ウ 1年次ビジネス文書検定3級以上合格率	90%以上	←	75%
エ 1年次英語検定3級以上合格率	50%以上	←	43%

2 次年度以降の課題と対応策

以下のような取組を通じて、生徒の基礎学力を向上するとともに、充実した商業科目の学習による資格取得を推進し、生徒の進路実現100%を目指す学校を構築する。

(1) 主体的・対話的で深い学びを継続した取組

主体的・対話的で深い学びを継続し、生徒の学力を向上させ、定着させていく。「読む力」「聞く力」「話す力」「探究する力」「課題を発見し解決する力」「発表する力」の向上を図る。今年度の課題を整理し、解決に向けた取組を行う。

- ① オンラインを活用した指導方法に関する校内研修を実施する。
- ② 先進的に取り組んでいる他校の実践事例発表会に参加する。
- ③ 「アクティブ・ラーニング」の「手法」を活用した実践を行い、全教科での指導の充実を図る。
- ④ 観点別評価の確立と実践。

(2) 地域と連携した学校活動の取組

地域連携推進委員会のメンバーを中心に、年間活動計画による早めの役割分担及び進行管理を行う。

(3) 基本的な生活習慣及び生活規律の確立

① 生活指導体制の再構築

- ・生活指導部を中心に、全教職員が共通認識をもって工夫ある生活指導を徹底する。
- ・生徒会組織を活性化し、生徒による自治意識を涵養する。
- ・担任による生徒や保護者への面談を充実させ、カウンセリングマインドをもってきめ細かい丁寧な指導を実施する。特に、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラー、養護教諭、学年主任等を中心に校内の委員会を定期的で開催し、長期欠席や問題行動等が懸念される生徒を早期発見して指導にあたる。
- ・学校設定科目「ライフビジョン」における計画的なキャリア教育に基づき、生徒の進路意識を2年にわたり醸成する。

② 生活規律の確立

- ・全教職員が共通認識をもって頭髪・身だしなみの指導を徹底する。
- ・交通安全指導を継続し、通学時の自転車事故をゼロにする。
- ・1日100回あいさつの励行
- ・遅刻の防止を推進する。

(4) 資格取得の奨励と部活動の活性化

① 系統的な指導計画の見直しと再構築

- ・3年間を見通した資格取得の指導計画を構築する。
- ・資格取得に向けた組織的・意図的・計画的な補習・補講体制を構築する。
- ・進路指導計画に基づく、生徒の資格取得計画を構築する。

② 部活動の活性化

- ・全員加入の奨励や、体験入部の推進により部員数を確保する。
- ・継続安定した活動をおこない、部活動参加の定着率を高め、部活動を通じて学校への帰属意識を醸成する。

(5) 進路指導の改善・充実

- ① 意図的、計画的な進路指導体制の構築
 - ・学校設定科目「ライフビジョン」の指導の内容を充実させるとともに、指導方法の改善や更なる教材開発を推進する。
 - ・近隣企業や門前仲町商店街、江東区役所、木場ハローワーク、東京商工会議所と連携してインターンシップを推進し、生徒に望ましい職業観・勤労観を培う。
- ② 本校独自の手帳を全校集会・講演会・学年集会・試験勉強の計画・日記として活用させ、生徒自ら計画を立てる。絶えずメモを取る習慣をつけさせる。
- ③ 体験的な学習と関連させたキャリア教育の推進
 - ・学校設定科目「ライフビジョン」にて教科「人間と社会」、奉仕と道徳、キャリア教育を実践する。
 - ・2年生のインターンシップを契機に、進路意識を高める。
 - ・2年生のビジネスアイデアを通じて実践的なビジネス活動についての理解を深めさせ、フィールドワークを実践する。
 - ・3年生の「総合実践」や「課題研究」、「広告と販売促進」「マーケティング」を通じて、実践的なビジネス活動についての理解を深めさせ、フィールドワークを実践する。
 - ・1年生では「東京のビジネス」において、調べ学習、研究、発表などフィールドワーク実施に向けた学習を行う。

(6) 学校広報活動の改善・充実

- ① 組織的な学校広報活動の充実
 - ・マナー講座、出前授業を1学期より案内を発信し展開する。
 - ・分掌・学年の枠を超えて全教職員を横断的に組織して広報・募集活動にあたる。
 - ・Webページの更なる改善・充実を図り、塾に関する生徒へのアンケートや学校案内を塾や中学校へ郵送するなど、最新の情報を中学生・保護者に提供する。
- ② 地域交流活動を通じた本校の教育活動アピール
 - ・地域企業・大学などを通じて地域交流活動を励行し、本校の教育活動の成果を積極的にアピールする。
 - ・従来から行っている活動を継続するとともに、今年度から始めた事業の継続・充実させていく。
 - ・地域との活動を教育課程に位置づけ、生徒に身につけさせたい能力を明確にして、取り組んでいく。

【学校評価の結果】

- ① 生徒のアンケートの回収率は78.8%(昨年78.3%)であり、昨年度と変わらない回答率であった。一方、保護者の回収率は10%、教職員は30%ほど上回っており、保護者及び教職員の回収率に改善が見られた。アンケート内容については、昨年度と大幅な変更はない。良否・前進後退の判断、原因の分析を行う。
- ② 85.8%の生徒が、「入学してよかった」という問いに「そう思う」「だいたいそう思う」と肯定的回答(以下、「そう思う」「だいたいそう思う」を「肯定的回答」という。)をしており、昨年度の78.6%から7%増加した。また、「様々な資格を取得することができる」に98.0%、「学校での学習は、将来役に立つと思う」に90.8%の生徒が肯定的な回答をしている。本校はアドミッション・ポリシーに「資格取得に挑戦し、自らすすんで自己の進路を切り開いていくことができる生徒」を掲げている。9割を超える生徒が、学校で資格取得ができる、学習が将来に役立つと受け止めていることは、学校が求めるものと生徒の実感が重なっていることを意味しており望ましいことと言えるだろう。さらに、「学校行事が充実している」に83.8%、「PC教室・体育館・

プール等の施設・設備が充実している」に93.3%の生徒が肯定的な回答をしている。新型コロナウイルス感染症への対応が一段落して多様な学習活動が展開できるようになり、生徒の満足度が増しているものと推察される。

③ 保護者の91.1%も「入学させてよかった」と答えている。昨年度も90.2%であるから、保護者の満足度は高い状態で継続していると言える。「様々な資格を取得することができる」に96.5%、「学校での学習は、将来役に立つと思う」に91.1%の保護者が肯定的な回答をしており、生徒と同様の傾向がうかがえる。資格取得と進路に結び付く学習は、保護者にも支持されていると捉えてよいだろう。教員の「生徒は、第三商業に入学してよかった」という回答は83.3%であった。昨年度は76.5%、一昨年度は64.5%であり、肯定的評価が1割ずつ増えている。教師が生徒の入学を肯定的捉えるのは、本校の教育が生徒に役に立っているという認識からであり望ましい変化である。引き続き「入学してよかった」「入学させてよかった」で高い評価を維持していくためには、様々な資格取得を含め、実学としての教育、授業力向上、生活指導及び進路指導の充実を進めていかなければならない。

④ 学習指導について、「習熟度別授業は、自分の学習ペースにあっていて、授業理解に役立っている」86.4%、「先生の授業はよく工夫されている」89.2%、「放課後等に質問ができる機会を設けてくれて、的確に答えてもらえる」82.8%の生徒が肯定的な回答をしている。生徒の実態に応じたきめ細やかな指導が展開されていることがうかがえる。これらに対する保護者の回答は、それぞれ79.8%、80.5%、74.0%であり、同じく教職員は83.3%、90.0%、86.6%となっており、三者とも同様の傾向がうかがえる。学習指導の方法やその改善について、三者が同じ方向を向いていると言えるだろう。この共通認識を基盤に、教師は、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲を喚起するような授業力を身に付け、主体的・対話的で深い学びにつなげていかなければならない。

「成績の振るわなかった生徒に対しての朝や放課後、休日の補習は充実している」の問いに、生徒は78.3%、保護者は72.2%、教師70.0%が肯定的回答をしており、補習に対する認識に差はなかった。自宅での学習時間について、「30分未満」49.1%（昨年度37.0%）、「1時間程度」30.2%（同41.2%）、「1～2時間」14.2%（17.2%）「2時間以上」6.5%（4.2%）と、昨年度と比べ自宅での学習時間が短い傾向が明らかになった。一昨年度から昨年度にかけては、自宅での学習時間が増加する傾向になっていただけに、学習習慣の確立に向けた指導に改めて取り組む必要がある。生徒が家庭学習の習慣を身に付けられるよう、引き続き適切な課題を与えるなど生徒に学習意欲を持たせる工夫が必要である。

⑤ 「進路を考えるには規律ある学校生活が必要」という問いに、生徒の90.8%が肯定的回答をしており、昨年度の81.3%から10%増えた。同じ問いに、保護者の91.7%、教員の86.7%も肯定的回答をしており、生徒、保護者、教師がおおむね共通の意識をもって取り組んでいることがうかがえる。本校の生活指導の根幹として、社会のルールを守るための指導を徹底している。遅刻や頭髪指導等の「マナー指導等の規律がしっかりしている」に対して、生徒は86.3%が肯定的回答をしており、ここ数年同じ傾向である。同じ問いに対し、保護者も81.6%が肯定的回答をしている。一方、教員が40.0%と、生徒や保護者に比して低い数字となっている。生徒、保護者はマナー指導が徹底していると感じているが、教員は不十分であると感じている。ルール・マナーの重要性について、生徒が自ら実行し定着できるよう、生徒、保護者、教員が共通理解をしながら指導を進める必要がある。

⑥ 進路指導について、「1年次からの進路指導は役立っている」に対する肯定的回答が93.6%で、昨年度の71.5%から大幅に増加した。進路情報の提供、個に応じた進路指導、進路相談等に関する肯定的回答は85%を超え、進路情報が十分に提供されていると感じる生徒は96.4%に上っている。保護者も1年次からの進路指導の肯定的回答が84.0%で昨年度から15%増加した。生徒、保護者ともに進路指導が充実していると感じているようである。引き続き1年生から進路に興味を持って取り組んでいけるよう進路指導の更なる充実を図っていききたい。

⑦ 読書活動について、「図書館を利用している」の生徒の肯定的回答は20.6%、「日頃から読書している」は31.2%と、一昨年度から昨年度はそれぞれ31.9%から35.6%、31.9%から38.7%と改善傾向が見られたが、図書館利用率は15%、読書率は6%低下した。図書室の利

用、未読率の減少、読書の推進を図る手立ての検討を継続していきたい。

- ⑧ 教職員の働き方改革への取組について、「国や都が働き方改革に取り組んでいることを知っている」に対し肯定的な回答をした生徒は57.1%であり、昨年度と変わらなかった。保護者は、75.7%と昨年度より20%ほど増加しており、周知が進んでいることがうかがえた。教員も76.6%と昨年度の52.9%から改善した。
- ⑨ いじめの未然防止や対策について、「いじめなどの問題について学校はしっかり対応してくれる」に対し、生徒の79.9%が肯定的な回答をした。一昨年度73.9%、昨年度74.6%であるから、わずかずつではあるが改善傾向にある。教職員の日々のきめ細かな対応が表れているものと考ええる。保護者は73.4%で昨年度の59.7%に比べ肯定的な回答が増加した。一方、教職員は80%が肯定的な回答をしているものの、昨年度は全員が肯定的な回答をしており、十分な対応をしていると認識している教員が減少した。ベテラン教員が退職や異動により若手教員が大幅に増加したことが要因の一つであろう。十分な対応ができていないかもしれないという認識は、改善の契機でもある。研修等の充実を図り、若手教員も生徒指導に自信をもって臨めるようにしていきたい。

【学校運営連絡協議会の成果と課題】

- (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

令和6年度は、6月、11月、令和7年2月と対面式での学校運営連絡協議会を開催し、協議委員と会合することで、学校の教育活動の取り組みの成果が伝わりやすく、教員の日頃の学習指導、生活指導、進路指導の現状と成果を伝えることができた。

- (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

東京都の商業教育の取り組みが素晴らしい成果を上げていることを、中学生によりPRすること。

【学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項】

- (1) 学校教育活動全般

生徒の自己実現のために、全教職員で生徒への進路指導を改善・充実化し、校長の学校経営計画の実現にさらに努める。

- (2) 学習指導

生徒の学力定着のため、生徒の実態や理解度を把握しながら、魅力あふれる授業を展開するために学習指導法の改善や教材開発を行い、生徒の学力向上に努める。

- (3) 生活指導

身だしなみやマナー、自転車の乗り方、遅刻・頭髪指導等を生徒および保護者に周知し、組織的なきめ細かな指導により、基本的な生活習慣を身に付ける。

- (4) 進路指導

3年間を見通した進路指導計画を改善・充実させ、上級学年や卒業生が講師になって指導する。生徒や保護者に進路情報を計画的に発信し、きめ細かい組織的な指導を行い、生徒の進路希望を実現する。

- (5) 特別活動

部活動の加入率を向上させるため、全生徒に部活動に加入するように次年度も推進する。日常的な顧問の指導のもと、指導体制や内容を見直し、年間指導計画に基づく計画的・継続的な指導により、部活動の活性化を図る。

- (6) 健康・安全教育

道徳教育、主権者教育、ボランティア活動、インターンシップを実施し、生徒の自尊感情、自己肯定感を高める教育の工夫を図る。また、自殺防止の観点やいじめ防止の観点から十分な指導をしていく。

自転車通学での事故防止や、乗り方のマナーの指導の徹底を図るために、江東区のスタン

トマンを活用した交通安全指導を実施する。

防災教育、情報モラル教育、薬物乱用防止教室や SNS・携帯教室等のセーフティ教室、健康教室を実施する。